

# 第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

## 小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	学校法人山梨学院 山梨学院小学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	防災学習館をつくろう！ ―地域の防災を学ぶ―

### 〈活動・研究の意義および活動報告〉

#### 1. 活動に至る経緯

戦国時代、武田信玄は治水事業の一環として「信玄堤」の造営を行った。信玄堤のおかげで荒れ狂う河川はおとなしくなり、洪水被害が減ったという話が残っている。今後も、いつ県民の想定を超える大規模な自然災害が発生してもおかしくない。そこで、児童による「防災学習館」づくりを計画した。

#### 2. 活動・研究の目的

学んだことを生かして、児童自ら防災を呼びかけることを目的とした展示コーナーである「防災学習館」を拠点として全校に防災意識を広め、児童たちがこれからの防災の担い手になることを目指したい。

#### 3. 活動内容

##### （1）信玄堤の学習

①信玄堤の学習 山梨県の偉人の一人である武田信玄を切り口として、武田家が民に築かせたとされる信玄堤の学習を行った。その中でも、児童が特に興味をもった「聖牛」について、調べ学習を行った。

②信玄堤の見学 学習後、信玄堤がある信玄堤公園へ見学に行った。信玄堤の見学の際には甲斐市教育委員会生涯学習文化課の方に案内していただいた。堤防の重要性や聖牛の大きさなどを確かめることができた。

③防災意識の高まり 信玄堤が昔から機能することで、水害から地域を守ってきたことを学んだ児童は、近年、地震や噴火についてのニュースを多く目にすることもあり、防災意識を高める必要性を改めて感じた。

##### （2）防災の学習

①防災の考え方 自然災害の種類や山梨で発生する可能性が高い自然災害を確認し、避難する際に必要なことについて調べ学習を行った。

②防災カードゲーム 避難の際に役立つ知識をゲーム感覚で身につけることができる「防災カードゲームシャッフル+」（幻冬舎）を行った。ローリングストック法や簡易マスクの作り方などの防災知識を学ぶことができた。

③段ボールベッド・簡易トイレ体験 段ボールベッドや簡易トイレの実物を組み立て、体験する活動を行った。「意外と寝心地がよかった」などの感想をもつ児童が多かった。



④防災講話 甲府市地域防災課の方をお招きし、「子ども BOSAI 講話」を行っていただいた。自治体が行う避難所設営についてのお話もしていただいた。調べてもわからなかったことを学ぶことができた。

### (3) 防災学習館の運営

①防災学習館の作成 児童と相談し、これまでに学習したことを他学年の児童に伝える「防災学習館」をつくらせて運営することに決まった。グループごとに好きなテーマを決め、ブースをつくらせて運営することにした。様々なテーマの約 20 グループによってブースがつけられた。

<児童が作成したブースのテーマ(一部)> ①津波の怖さを知ってもらおう ②過去の自然災害の歴史 ③一次避難・二次避難の仕方 ④もし富士山が噴火したら? ⑤最新の防災グッズ・防災食 ⑥信玄堤・聖牛の魅力 ⑦土砂崩れの被害 ⑧津波発生メカニズムを模型で説明! ⑨避難所の様子を想像しよう

#### <児童が作成したブースの一例>

#### 避難所の様子を想像しよう

避難所の模型、非常食の実物、能登半島地震の避難所の写真、避難所で発生したトラブルなどを掲示し、避難所での生活を想像してもらおう。



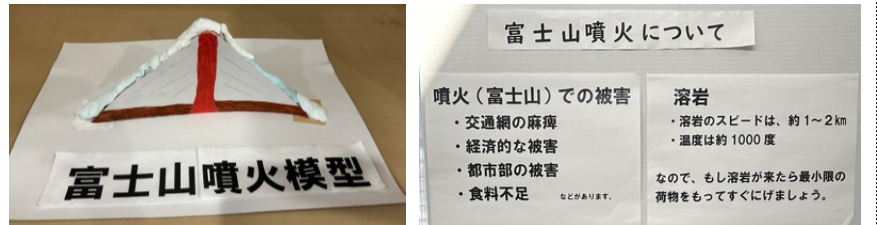
#### 信玄堤・聖牛の魅力

聖牛の模型を展示したり、信玄堤の魅力やクイズを動画に編集して見てもらったりすることで、信玄堤や聖牛の役割・魅力を知ってもらおう。



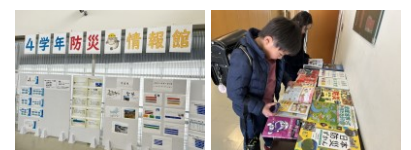
#### もし富士山が噴火したら?

富士山が噴火するメカニズムを模型に表し、どのような被害が想定されているかを展示することで、噴火への備えを呼びかける。



②防災学習館の運営 作成したブースは校内に展示し、自由に見ることができるようにした。それとは別に、6 学年児童に観覧してもらった時間を設けた。

4 学年児童はブースの内容を説明したり、作成した物や動画を見てもらったりして学習成果を発表した。6 学年児童は「自然災害の怖さを再確認できた」「こんな防災グッズ、初めて知った」などの感想をもっていた。



ブース設置の様子 / 図書展示

### 4. 成果・課題

信玄堤を学習することで、昔から人々が水害対策のために工夫をしていたこと、その工夫が現代の治水事業にも生かされていることの素晴らしさを学



6 年生に向けて発表

ぶことができた。現代においても自然災害への備えをしていることや自分たちにできる備えを学ぶ中で防災意識が高まった様子が見られた。さらに、児童が主体となって防災学習館を運営し、他学年と交流することで、他学年児童にも防災意識が広まり、「防災の担い手」としての素地が養われたと考える。課題としては、「自助」に関する内容の学習に偏ってしまったことが挙げられる。自助は自分の身を守るために大切なものであるため、一定の成果として捉えることができるが、今後は公助・共助にも焦点を当て、より広い視野で学習を深めていきたい。